

美馬市学校再編計画実施計画

平成23年6月

美馬市教育委員会

目 次

1	実施計画の基本的な考え方	1
2	実施計画の計画期間	1
3	学校規模の適正化について	2
4	通学距離について	9
5	施設整備について	11
6	美馬市学校再編計画	12

1 実施計画の基本的な考え方

実施計画は、基本構想に基づき、次代を担う子どもの育成と今後の学校環境の充実を図るという視点を基本としつつ、児童・生徒数の推移や学校施設の状況などを勘案し、次の点から望ましい方向性を示すものとします。

- (1) 学校規模の適正化は、児童・生徒にとって望ましい学習集団を形成し、より良い学習環境を創造するものであること。
- (2) 地域の中での学校の役割や通学距離、通学路の安全確保に十分配慮したものとし、保護者、地域住民の理解と協力を得られる計画内容であること。
- (3) 施設整備に当たっては、防災上の安全性に配慮し、情報化などこれからの時代に対応した新しい教育に順応できるものとする。

2 実施計画の計画期間

実施計画の計画期間については、基本構想に基づき、おおむね30年間としつつ、児童・生徒の教育環境の充実を基本とするとともに、各施設の耐用年数なども考慮する必要があることから、10年ごとの3つの期間に区切り、再編を進めるものとします。

また、今後の児童・生徒数の推移や社会情勢の変化なども勘案し、本実施計画は5年ごとを目途に計画の検証を行うものとします。

3 学校規模の適正化について

児童・生徒の推移

(1) 児童数の推移

(人)

小学校名	児童数（各5月1日時点）		推定児童数
	H17年度	H22年度	H28年度
江原南	298	298	246
江原北	50	54	54
清水	2	16	8
脇町	331	330	266
岩倉	217	170	142
郡里	106	108	85
喜来	72	61	56
芝坂	57	37	20
重清東	106	102	72
重清西	94	91	57
三島	125	99	105
穴吹	179	155	107
宮内	43	24	16
木屋平	37	19	20
計	1,717	1,564	1,254

※H17年度、H22年度の実数は、各年度の学校基本調査によるものです。

※H17年度の実数は、江原北には江原東、脇町には大谷、岩倉には川原柴、芝坂には切久保、重清東には重清北、穴吹には初草をそれぞれ含んでいます。

(2) 生徒数の推移

(人)

中学校名	生徒数（各5月1日時点）		推定生徒数
	H17年度	H22年度	H28年度
江原	190	181	195
脇町	215	156	166
岩倉	107	96	77
美馬	262	210	197
三島	49	64	51
穴吹	139	94	79
木屋平	13	17	8
計	975	818	773

※H17年度、H22年度の実数は、各年度の学校基本調査によるものです。

1 学年あたりの学級数

◆小学校及び中学校の学級編制は、1 学年に2 学級以上を基本とします。

平成28 年度時点で、美馬市の小学校（14 校）の児童数は1,254 人になると推計されており、仮に1 学級40 人で全学年2 学級にするとした場合、本市の望ましい学校数としては3 校程度ということになります。また、中学校（7 校）の生徒数は773 人と予測されており、同じ条件に当てはめると、こちらも3 校程度ということになります。

これまでの児童・生徒数の推移から、各小・中学校における平成28 年4 月時点の状況は、次のように予測されます。

【小学校】

江原南小学校

平成17 年5 月時点での児童数は298 人で、平成22 年5 月時点での児童数は298 人となり、5 年間の増減率は0%となっています。

一方、6 年後の児童数の見込みは246 人となり、平成22 年5 月時点及び平成17 年5 月時点からの増減率は17.45%減となります。

このことから、平成28 年4 月時点では、1 学年当たり2 学級の確保ができる見込みとなっています。

江原北小学校

平成17 年5 月時点での児童数は40 人で、平成22 年4 月に江原東小学校（平成17 年5 月時点の児童数は10 人）との統合が実施され、5 月時点での児童数は54 人となり、5 年間の増減率は8%増となっています。

一方、6 年後の児童数の見込みは54 人となり、平成22 年5 月時点からの増減率は0%、平成17 年5 月時点からの増減率は8%増となります。

このことから、平成28 年4 月時点における1 学年あたりの学級数は、1 学級となる見込みです。

清水小学校

平成17 年5 月時点での児童数は2 人で、平成22 年5 月時点での児童数は16 人となっていますが、6 年後の児童数の見込みは8 人となっています。

このことから、平成28 年4 月時点では、全学年において国の学級編制標準を下まわり、複式学級を余儀なくされる小規模化が更に進む見込みとなっています。

脇町小学校

平成17年5月時点での児童数は327人で、平成20年4月に大谷小学校（平成17年5月時点の児童数は4人）との統合が実施されました。その後、平成22年5月時点での児童数は330人となり、5年間の増減率は0.30%増となっています。

一方、6年後の児童数の見込みは266人となり、平成22年5月時点からの増減率は19.39%減、平成17年5月時点からの増減率は19.64%減となります。

このことから、平成28年4月時点では、1学年当たり2学級の確保ができる見込みとなっています。

岩倉小学校

平成17年5月時点での児童数は213人で、平成21年4月に川原柴小学校（平成17年5月時点の児童数は4人）との統合が実施されました。その後、児童数の減少が進み、平成22年5月時点での児童数は170人となり、6年間の増減率は21.66%減となっています。

一方、6年後の児童数の見込みは142人となり、平成22年5月時点からの増減率は16.47%減、平成17年5月時点からの増減率は34.56%減となります。

このことから、平成28年4月時点における1学年当たりの学級数は、1学級となる見込みです。

郡里小学校

平成17年5月時点での児童数は106人で、平成22年5月時点での児童数は108人となり、5年間の増減率は1.89%増となっています。

一方、6年後の児童数の見込みは85人となり、平成22年5月時点からの増減率は21.30%減、平成17年5月時点からの増減率は19.81%減となります。

このことから、平成28年4月時点における1学年当たりの学級数は、1学級となる見込みです。

喜来小学校

平成17年5月時点での児童数は72人で、平成22年5月時点での児童数は61人となり、5年間の増減率は15.28%減となっています。

一方、6年後の児童数の見込みは56人となり、平成22年5月時点からの増減率は8.20%減、平成17年5月時点からの増減率は22.22%減となります。

このことから、平成28年4月時点における1学年当たりの学級数は、1学級となる見込みです。

芝坂小学校

平成17年5月時点での児童数は41人で、平成20年4月に切久保小学校（平成17年5月時点の児童数は16人）との統合が実施されました。その後、平成22年5月時点での児童数は37人となり、5年間の増減率は35.09%減となっています。

一方、6年後の児童数の見込みは20人となり、平成22年5月時点からの増減率は45.95%減、平成17年5月時点からの増減率は64.91%減となります。

このことから、平成28年4月時点では、全学年において国の学級編制標準を下まわり、複式学級を余儀なくされる小規模化が更に進む見込みとなっています。

重清東小学校

平成17年5月時点での児童数は94人で、平成22年4月に重清北小学校（平成17年5月時点の児童数は12人）との統合が実施され、5月時点での児童数は102人となり、5年間の増減率は3.77%減となっています。

一方、6年後の児童数の見込みは72人となり、平成22年5月時点からの増減率は29.41%減、平成17年5月時点からの増減率は32.08%減となります。

このことから、平成28年4月時点における1学年当たりの学級数は、1学級となる見込みです。

重清西小学校

平成17年5月時点での児童数は94人で、平成22年5月時点での児童数は91人となり、5年間の増減率は3.19%減となっています。

一方、6年後の児童数の見込みは57人となり、平成22年5月時点からの増減率は37.36%減、平成17年5月時点からの増減率は39.36%減となります。

このことから、平成28年4月時点における1学年当たりの学級数は、1学級となる見込みです。

三島小学校

平成17年5月時点での児童数は125人で、平成22年5月時点での児童数は99人となり、5年間の増減率は20.80%減となっています。

一方、6年後の児童数の見込みは105人となり、平成22年5月時点からの増減率は6.06%増、平成17年5月時点からの増減率は16.00%減となります。

このことから、平成28年4月時点における1学年当たりの学級数は、1学級となる見込みです。

穴吹小学校

平成17年5月時点での児童数は162人で、平成22年4月に初草小学校（平成17年5月時点の児童数は17人）との統合が実施され、5月時点での児童数は155人となり、5年間の増減率は13.41%減となっています。

一方、6年後の児童数の見込みは107人となり、平成22年5月時点からの増減率は30.97%減、平成17年5月時点からの増減率は40.22%減となります。

このことから、平成28年4月時点における1学年当たりの学級数は、1学級となる見込みです。

宮内小学校

平成17年5月時点での児童数は43人で、平成22年5月時点での児童数は24人となり、5年間の増減率は44.19%減となっています。

一方、6年後の児童数の見込みは16人となり、平成22年5月時点からの増減率は33.33%減、平成17年5月時点からの増減率は62.79%減となります。

このことから、平成28年4月時点では、全学年において国の学級編制標準を下まわり、複式学級を余儀なくされる小規模化が更に進む見込みとなっています。

木屋平小学校

平成17年5月時点での児童数は37人で、平成22年5月時点での児童数は19人となり、5年間の増減率は48.65%減となっています。

一方、6年後の児童数の見込みは20人となり、平成22年5月時点からの増減率は5.26%増、平成17年5月時点からの増減率は45.95%減となります。

このことから、平成28年4月時点では、一部の学年において国の学級編制標準を下まわり、複式学級を余儀なくされる見込みとなっています。

【中学校】

江原中学校

平成17年5月時点での生徒数は190人で、平成22年5月時点での生徒数は181人となり、5年間の増減率は4.74%減となっています。

一方、6年後の生徒数の見込みは195人となり、平成22年5月時点からの増減率は7.73%増、平成17年5月時点からの増減率は2.63%増となります。

このことから、平成28年4月時点では、1学年当たり2学級の確保ができる見込みとなっています。

脇町中学校

平成17年5月時点での生徒数は215人で、平成22年5月時点での生徒数は156人となり、5年間の増減率は27.44%減となっています。

一方、6年後の生徒数の見込みは166人となり、平成22年5月時点からの増減率は6.41%増、平成17年5月時点からの増減率は22.79%減となります。

このことから、平成28年4月時点では、1学年当たり2学級の確保ができる見込みとなっています。

岩倉中学校

平成17年5月時点での生徒数は107人で、平成22年5月時点での生徒数は96人となり、5年間の増減率は10.28%減となっています。

一方、6年後の生徒数の見込みは77人となり、平成22年5月時点からの増減率は19.79%減、平成17年5月時点からの増減率は28.04%減となります。

このことから、平成28年4月時点における1学年当たりの学級数は、1学級となる見込みです。

美馬中学校

平成17年5月時点での生徒数は262人で、平成22年5月時点での生徒数は210人となり、5年間の増減率は19.85%減となっています。

一方、6年後の生徒数の見込みは197人となり、平成22年5月時点からの増減率は6.19%減、平成17年5月時点からの増減率は24.81%減となります。

このことから、平成28年4月時点では、1学年当たり2学級の確保ができる見込みとなっています。

三島中学校

平成17年5月時点での生徒数は49人で、平成22年5月時点での生徒数は64人となり、5年間の増減率は30.61%増となっています。

一方、6年後の生徒数の見込みは51人となり、平成22年5月時点からの増減率は20.31%減、平成17年5月時点からの増減率は4.08%増となります。

このことから、平成28年4月時点における1学年当たりの学級数は、1学級となる見込みです。

穴吹中学校

平成17年5月時点での生徒数は139人で、平成22年5月時点での生徒数は94人となり、5年間の増減率は32.37%減となっています。

一方、6年後の生徒数の見込みは79人となり、平成22年5月時点からの増減率は15.96%減、平成17年5月時点からの増減率は43.17%減となります。

このことから、平成28年4月時点における1学年当たりの学級数は、1学級となる見込みです。

木屋平中学校

平成17年5月時点での生徒数は13人で、平成22年5月時点での生徒数は17人となり、5年間の増減率は30.77%増となっています。

一方、6年後の生徒数の見込みは8人となり、平成22年5月時点からの増減率は52.94%減、平成17年5月時点からの増減率は38.46%減となります。

このことから、平成28年4月時点における1学年当たりの学級数は、1学級となる見込みです。

小規模校の統合について

美馬市では教育振興計画に基づき、平成19年度から平成21年度にかけ小学校6校が休校となりました。これらの学校は、同計画の中で述べている「3学級以下で児童数が26人以下」に該当する小学校で、複式学級の解消や、教頭、養護教諭等の配置の問題もあり、統合が進みました。

学校再編計画においても「3学級以下で児童数が26人以下の学校」を一つの目安とした場合、児童数だけをみると、平成22年度時点で清水小学校、宮内小学校、木屋平小学校の3校が該当しています。また、平成25年度からは芝坂小学校が該当するものと予測されています。

実施計画では、早い段階での統合を計画すべきと考えます。

4 通学距離について

小学生・中学生の通学距離

◆通学距離は小学校にあってはおおむね4キロメートル以内、中学校にあってはおおむね6キロメートル以内を目安とします。

現在の通学状況は、学校の統合及び中学校における寮廃止に伴う送迎を除き、小学校では原則として徒歩、中学校では徒歩又は自転車通学となっています。

今後、学校再編の進展に伴い通学距離が小学校で4 km、中学校で6 kmを超えることも想定されます。特に山間部の学校が統合する場合は、これらの通学距離を大きく超えることが考えられ、スクールバス等の通学支援が必要になります。

また、学校の再編にあたっては、基本構想の中でも触れられているように、これまでの校区編成を基本としつつも、通学距離等によっては、柔軟な対応をする必要があると考えます。

木屋平小学校、木屋平中学校について

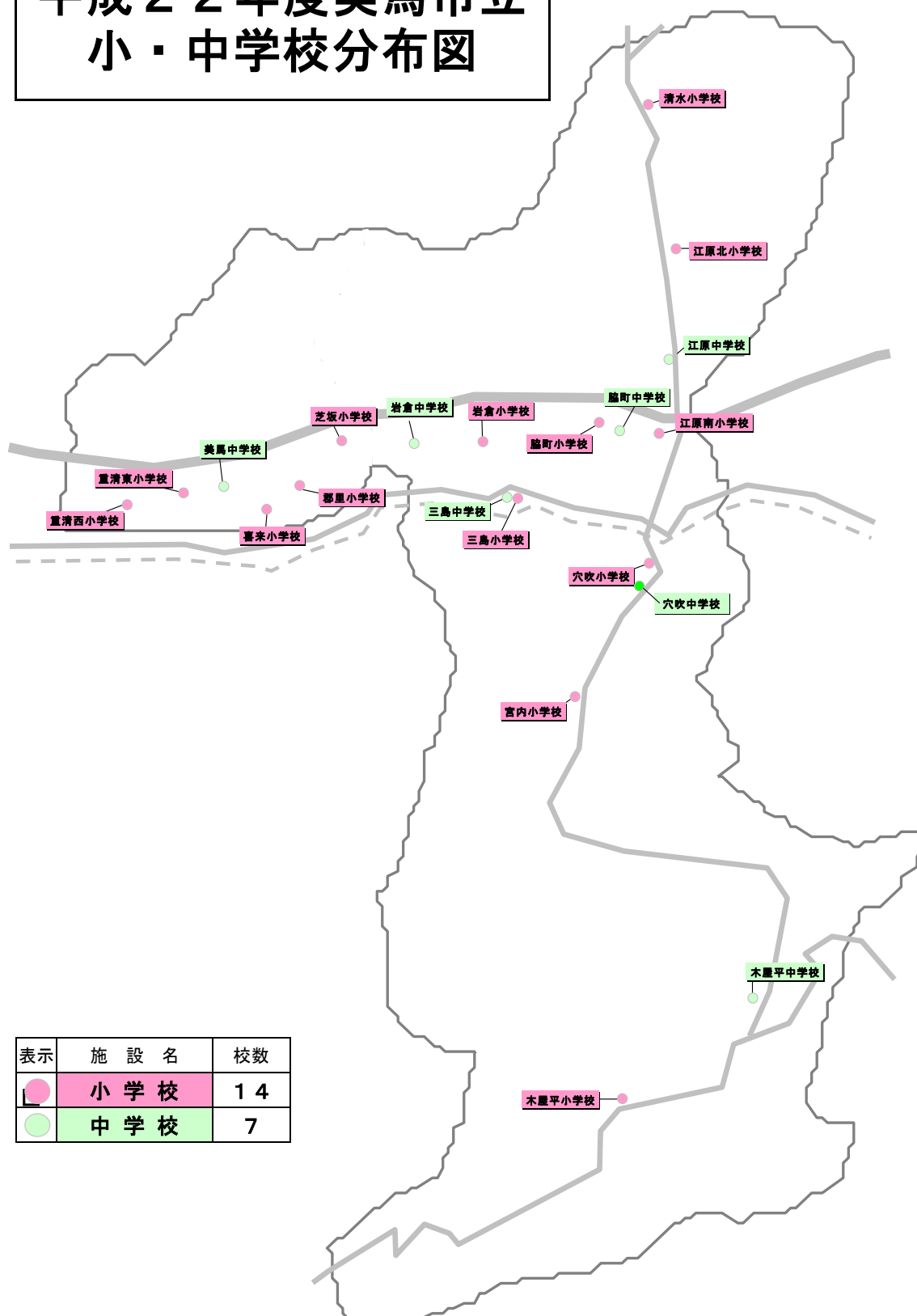
木屋平小学校及び木屋平中学校については、従来から小規模校であり、学校規模の適正化の観点から統合をすべきと考えられますが、統合後は各学校への通学距離が非常に長くなり、子どもたちの日々の体力的な負担等が懸念されます。

木屋平小学校から宮内小学校へは約2.7 km、穴吹小学校へは約3.3 kmあり、仮にスクールバス等による通学手段を講じたとしても、およそ1時間の通学時間を要するものと思われます。また、木屋平中学校から穴吹中学校へも約2.8 kmの通学距離があり、小学校同様、1時間程度の通学時間を要すると考えられます。

こうした地理的要因を考慮すると、木屋平小学校及び木屋平中学校に関しては、今後のよりよい教育諸条件の整備・充実を目指すうえからも、

「小中一貫校としての存続」について検討していく余地があると考えます。

平成22年度美馬市立 小・中学校分布図



5 施設整備について

学校の再編にあたっては、市の財政事情を考慮し、できる限り既存施設を有効活用することを基本に、学校施設・設備の充実に努めてまいります。

小・中学校における学校施設の状況

平成22年5月現在、市内学校施設の建物面積は、小学校14校では教室や管理棟などの校舎が約29,500㎡、体育館が約9,400㎡であり、中学校7校では校舎が約19,800㎡、体育館が約6,500㎡となっています。

このうち、建築後30年以上経過した建物が、小学校では校舎で約45%、体育館で約33%、中学校では校舎で約25%、体育館で70%を占めています。

小・中学校とも全般的に老朽化が進んでおり、施設の修繕費等が今後増大していくことが予測されます。

一方で、学校施設の耐震補強については、平成21年度から集中的に耐震工事等を実施しており、平成22年度末までに約90%の施設で耐震化が完了する予定になっています。

このほか、各学校施設がもつ普通教室や特別教室の数、運動場や武道場、プール等の面積、防災や通学における安全性等に配慮したうえで、施設の選別をしていくことが重要になってきます。

学校施設に関する選別要因

- 施設の耐用年数（耐震化の実施）
- 施設の大きさ、収容能力（教室数、運動場やプールの広さ）
- 施設の立地条件